

●特集

痙縮治療最前線

巻頭言 幸田 剣1237

●巻頭カラー

反復性経頭蓋磁気刺激 (rTMS) を用いた
痙縮治療の戦略 佐々木信幸1240

第 1 章

「痙縮に関する基礎的な知識」

痙縮の病態生理 正門由久1248

痙縮の臨床的な評価 大田哲生 田中伸吾・他1254

痙縮による歩行障害の評価 竹田信彦 長谷公隆1260

第2章 「併用療法」

- 物理療法との併用療法 菊地尚久1268
- 装具療法との併用療法 勝谷将史1274
- 下肢痙縮に対する理学療法 大畑光司1282
- 薬物療法, 神経ブロック療法との併用療法 伊藤英明 松嶋康之・他1287
- ボツリヌス療法を用いた痙縮治療の戦略と併用療法 原 貴敏1292
- 上肢痙縮のコントロール 中馬孝容1306
- 上肢痙縮に対する作業療法 竹川 徹 鈴木翔太・他1313
- 痙縮に対する ITB 療法と併用療法 内山卓也1320
- 下肢痙縮に対する手術療法との併用療法 幸田 剣1328

第3章 「多職種連携」

- ボツリヌス療法と医療連携—大学病院の立場から 川上途行1336
- 回復期リハビリテーション病棟における痙縮のチーム医療
岡本隆嗣 渡邊 匠・他1342
- 過疎地域リハビリテーション中核病院における痙縮治療の普及
山田祐歌1354
- 訪問診療等, 地域での痙縮治療について 神山一行1360

Column

- 多職種連携について—リハビリテーション科専門医の立場で 吉岡和泉1265
- チーム医療としての多職種連携—痙縮治療の評価について
藤澤大介 武田 明・他1303
- 治療へのアクセスとしての多職種連携について 田津原佑介 幸田 剣1351